

UIFA JAPON NEWSLETTER



NO.59 May 25, 2004

■主な内容

UIFA 第 14 回世界大会に参加しよう
総会・記念講演会・懇親会のお知らせ
10 周年記念事業「女性建築家たちの現在・過去・未来」CD 完成
第 31 回海外交流の会報告＝「施設ケアから在宅ケアへー理念と現実」
第 14 回トゥールーズ世界大会に向けて
トゥールーズの魅力・フランスの知恵が生んだトイレシステム
名古屋から発信＝「愛・地球博」・建築士オープンステージ 2003
私らしく働くー地域で、ー組織で No.5
マリンズバあたみ・注文住宅専門のコンサルティングと「第三の性」
「小川先生いってらっしゃいの会」報告・UIFA 会員の本
パリからのすてきなお知らせ・同潤会大塚女子アパートメント保存活動
「学校トイレ改修セミナー」に参加して・役員会報告



トゥールーズの歴史的建造物（フランス政府観光局 HP より）

UIFA 第 14 回世界大会に参加しよう

——第 14 回世界大会への期待——

小川信子

第 14 回世界大会は久しぶりにフランスに戻りました。
開催地トゥールーズは、フランスの古都で魅力ある地域と思われ
ます。

今回の 3 つのトピックは、半世紀の間、女性の立場から開拓
してきた環境、建築に対する視点を、課題の多いこの時代にも
う一歩ふみだして、人間を守り、世界の人々が共生できる社会
環境を築く、地道な力を必要としていることを喚起しようとし
ているのではないのでしょうか。

また、10 周年記念事業としてまとめた「私にとってのユニバ
ーサルデザイン」をより発展させたものとして国際会議のテー
マを捕らえることができるように思えます。

環境の力をかりて、問題提起し、話し合い、創造力を豊かに
することができるので、皆様方の参加を期待しています。

Great Expectations for the 14th International Congress of UIFA

OGAWA, Nobuko (President of UIFA JAPON)

Let us all participate in the 14th International Congress of
U.I.F.A. that will take place in Toulouse, France. Toulouse
is an old castle town, and seems to be a very attractive
place.

The three topics of this congress call attention to what
women can do to establish a peaceful world. There seems
to be a need for sober effort for environmental protection,
looking back half a century from the viewpoint of women
architects, at the surroundings and structure. This will be a
great opportunity to expand the theme of our 10th
anniversary project "My Universal Design". Let us propose
the problems, have discussion, and enlarge our creative
powers.

I look forward to seeing all the UIFA JAPON members at
the congress.
(translation=I.K.)

2004 年度 総会・記念講演・懇親会のお知らせ

日時:2004年 6月12日(土)総会 13:00~13:30

記念講演会 14:00~15:30

懇親会 16:00~17:00

場所: けんぽプラザ 3階集会室

■記念講演 建築家 池田武邦氏

「持続可能な循環型社会への道・21世紀は女性の時代・・・」

JIA 名誉会員で日本設計(株)を創設した建築家、池田武邦氏
をお招きし、お話いただきます。

循環型社会を目指す社会の構築に果たす役割についてや、技
術文明の発達、逆に自然環境破壊を招き、人体に及ぼす悪
環境の現実、目を向けねばならない、今世紀の建築家の役割
など、霞ヶ関ビルから最後のエコシティ・ハウステンボス設計に至る
貴重なご経験からのお話を伺える事でしょう。

皆様お誘いの上、ぜひご参加ください。

(正宗)

UIFA JAPON 2004 GENERAL MEETING with A Special Lecture by Mr. Takekuni IKEDA

DATE : 12th June(Sat) 2004 PM 1:00~PM 5:00

VENUE : Kenpo Plaza : 3rdFloor, Conference Room

■ Mr.Takekuni IKEDA, an honorary member of JIA, and a
founder of Nihon Sekkei, Inc. will be invited to give a special
lecture on " The way to establish the sustainable recycling-based
society and 21st century as the women's era." The lecture will
touch on various subjects such as our professional rules for
establishing the recycling -based society since we are aware that
technological advance doesn't always mean good for the natural
environment and our health. From his exceptional professional
experience, as the architect of great work, from Kasumigaseki
Building to Eco City Huis Ten Bosch, we are expecting very
interesting things from him. After the lecture session we will have
a small gathering. You are cordially invited to join us. We hope
to see you there.

MASAMUNE, Kazuko(Vice President of UIFA JAPON)

「女性建築家たちの現在・過去・未来」

—UIFA JAPON 10年のあゆみを振り返りながら—
のCD-ROMが完成しました！

松川淳子

UIFA JAPON 10年のあゆみのCD-ROM版が完成しました！

このプロジェクトは東京ウィメンズブラザの助成を頂いて、昨年秋から作業チームを中心に精力的に作業を進めてきたものです(ニューズレター57号参照)。

パワーポイントで作成されたCD-ROMは、①設立以来10年間に実施した事業の成果をまとめ、その背景となった女性をめぐる社会状況の変化を明らかにすること、②この間の成果を次世代に引き継ぎ、この分野への女性の進出や就業について支援・啓発すること、③住まいやまちづくりの分野での日本の女性の活動を世界と同じ分野の女性たちに伝え、男女共同参画社会推進のための資料とすること、を目的としています。「めだま」のひとつは、会員から募集した「私の職場写真」を7分野にわけて掲載したこと—多様な分野で多彩な仕事をみせる会員の皆さんの楽しくも真摯な姿がみられることです。

こんなに多くの女性たちがこの分野で働くようになった背景にはパイオニアたちのさまざまな努力があったわけで、過去のデータも見やすくまとめています。第1回のパリ大会、思い出深い日本大会、最新のウィーン大会など、UIFA世界大会の写真も、おなじみ「この指とまれ」や「海外交流の会」などの日常活動の記録もたくさん収められています。総会をのぞくたびに皆様にお渡し出来る予定。講義や勉強会などの教材としても活用できると思います。お楽しみに！

Announcing the Completion of UIFA JAPON's 10th Anniversary Project: A CD-ROM of "The Past, Present, and Future of Women Architects — A Look Back on the Past 10 Years of UIFA JAPON"

We, the project-team for the 10th Anniversary of UIFA JAPON, has just completed a CD-ROM that presents a look back on the past 10 years of the organization !

The CD-ROM was designed with three main goals in mind: 1) Overview the results of projects that have been undertaken over the past 10 years to provide the background for explaining about the social changes that women have been part of during that time; 2) pass the results obtained so far on to the next generations, and provide support and pertinent information regarding progress, including employment, that women have made in this field; and 3) convey information about women's roles in the fields of housing, city planning, etc. to women in other countries in the same field, and use this information as a means of promoting gender equality in society.

One of the most noteworthy things in this CD is the response we received from our members, "Photos from My Workplace". The photos, which are sorted into seven fields, show both a happy side and a serious side of members' different fields of work. The CD-ROM also contains photos from the first UIFA conference in Paris, from the memorable conference in Japan, and from the most recent conference in Vienna as well as a record of daily activities from various groups in our organization. I think they will make wonderful materials for lectures, seminars, and other instructional activities.

MATSUKAWA, Junko (Vice President of UIFA JAPON)

施設ケアから在宅ケアへ —理念と現実—



グスタフ・ストランデルさん
(スウェーデン福祉研究所)

高齢者福祉と一口に言うが、この日は80才以上の層を対象としたケアのあり方をスウェーデンの経験を中心に話された。80才以上では痴呆症の方の比率が急に高くなり、本当にサポートが必要なのはこの方達というのがその理由である。

施設ケアから在宅ケアへの流れの中には、大規模な特養ホームや老人病院からグループホームまで

幾つかの施設形態があるが、現在スウェーデンでの主流はグループホームということである。またこれは痴呆症の高齢者に最適なケアの形態と言われているようだ。痴呆症ケアには痴呆症のタイプ別に、プロによる適切な個別ケアが必要だからである。

スウェーデンでは「介護活動は自己尊重と自己決定を中心として行うべき」という理念がまずあり、その具体的な形として様々なホームヘルプサービスやリハビリ、バリエーション豊かなデイケアがある。それらのサービスや福祉機器等の利用によって日常生活や地域生活への参加が容易になる。勿論、サービス等の選択の際には本人の意思が尊重される。ただし、我儘との線引きや家族と本人の希望の調整に難しい面があるとのことで、日本と共通の課題もあるようである。ハード面からの援助としては、様々な福祉機器や、日本でも最近話題になっているユニバーサルデザインなど道具の普及、家庭の居間と同じような雰囲気にならされたデイケアセンター等が挙げられた。

最後に、たとえ痴呆になっても自分の好きなことを続けられる限り幸せでいられる、というストランデル氏の言葉には胸を打たれるものがあった。

(石川和)

Facility Care to Home Care—Idea and Reality by Mr. Gustav Strandell

A lecture titled "Facility Care to Home Care - Idea and Reality" was given by Mr. Gustav Strandell of The Swedish Care Institute on the 7th of February 2004 in Tokyo. This lecture was held as one of the UIFA Seminars focusing on inter-cultural learning. He demonstrated various care needs and facilities in Sweden and concluded that the group home would be the best to care for seniors over 80 years old who are particularly senile. For such seniors, the idea of self-respect and self-decision making should be maintained in order to choose various care. I was impressed by his words "People are able to live happily even with senility as long as they keep doing what they love to do."

(ISHIKAWA Kazuyo, translation=TA)

～参加者の声～

伊藤伸二氏(建設会社)

本来、長寿は人類の念願のはずですが。歳を重ねるのが待ち遠しくなる期待に満ちた長寿社会の構築。今回の氏の御講演から、理念、教育、自己決定、人格の尊重、文化などが示唆に富む重要な言葉として特に印象に残りました。





「トゥールーズの魅力」 Attractions in Toulouse

フランスで6番目の大都市。人口70万人。コンコルドやエアバスなど航空宇宙産業の拠点であり、又1229年創設のトゥールーズ大学を中心に7万人以上の学生を擁する学問・研究都市の顔をもつ。ローマ時代にさかのぼる古い歴史があり、9世紀にはトゥールーズ伯領として華やかな中世文化が開花。ルネサンス時代には藍染料や穀物の交易で大いに繁栄した。

旧市街にはガロンヌ川でとれるピンク色の粘土からつくった赤レンガの家並みが軒を連ね、「バラ色の街」との異名をとる。現在は美術館として利用されているアセザ館など、瀟洒な邸宅も堪能しよう。

■ 名所案内

サン・セルナン聖堂 BASILIQUE ST-SERNIN

11〜12世紀にかけて建立された南フランスで、最大規模のレンガ造りのロマネスク教会。スペインのサン・チアゴ・デ・コンポステッラへの巡礼者が立ち寄った聖堂としても知られる。

ジャコバン修道院 LES JACOBINS

ドミニコ会最初の修道院。13世紀に建てられたゴシック様式の傑作。

アセザ館 / パンベルグ財団美術館 HOTEL D'ASSEZAT / FONDATION BEMBERG ルネサンス時代に藍染料や穀物の交易で富を得た商人が建てた豪邸が、市内に50軒ほど残っており、アセザ館もそのひとつ。

オーギュスタン美術館 MUSEE DES AUGUSTINS

14世紀に建てられた修道院を改装した建物で、サン・セルナン教会の僧院にあった柱頭やレリーフを収蔵しているほか、フランドル派や近代絵画の作品が展示されている。

トゥールーズ・ロートレック美術館 MUSEE TOULOUSE-LAUTREC
ロートレックが36歳の若さで死去したのち、彼の作品は母親の手で故郷であるアルビの街に寄贈された。1922年、元司教館を改装しオープンした美術館には、ロートレックの作品の6割にあたる1000点を収蔵し、少年時代のデッサンから時代を追って展示している。



Centre des Congrès Pierre Badis
UIFA大会の会場(予定)

写真と本文はフランス政府観光局HPより抜粋



フランスの知恵が生んだトイレシステム



パリのカプセル型街頭トイレ

「開け、ゴマ。」コインを投入すると自動的にドアが開き、中に入ると自然にドアがロックされます。内部には便器、トイレットペーパー、鏡、洗面台が無駄なくレイアウトされ、まずまずの清潔さ。用を足し外に出るとドアが閉り、便器や床を洗浄する音がします。このトイレの製造から設置メンテナンスまで一括して手掛けているのがドゥコー社。パリでよく見かけるバス停やストリートファニチャーもその事業の一貫です。バス停を無償で提供し、掲載した広告で収入得るというアイデア。1960年代に始まったこのシステムは都市基盤整備や景観整備および行政代行サービスの2つの効果をもたらしています。今ではヨーロッパ、アメリカ、アジアに広がっているこのトイレシステムが、日本では行政のハードルが高く、未だ採用されないのは残念です。

(著書:「世界のトイレ快道を行く」TOTOBKS 発行、等)



収入源のバス停とストリートファニチャー

Public Washroom System Created By French Wisdom

SAKAMOTO, Saiko

I have noticed that there are fewer public washrooms in Europe compared to in Japan, however, they have the famous "capsule washroom" in Paris. The "capsules" appear every 10 meters at most on the main streets.

It is available with coin for use, automatically locked when we get in and automatically washed after the use. Jc Decaux, that is the manufacturer, contractor and maintenance of this washroom system, also deals with the bus stops and street furniture in Paris. The bus stop system making profits out of advertisement, started in 1960's, has been remarkable not only as an improvement of the city infra-structure but a new agency service for the municipality. The washroom system has spread widely in Europe, the U.S. and Asia, but it is unfortunately not approved by the government of Japan yet. (t=T.A.)

第32回 海外交流の会 2004年7月17日(土) P.M. 2:00~
三宅理一氏 講演会 「フランス文化の多様性と都市再生」

於: 女性と仕事の未来館

詳しくは追ってお知らせ致します。

愛・地球博 World Expo of Global Harmony

愛・地球博をご存知ですか？

2005年3月25日～9月25日まで

愛知県内で開催される国際博覧会のことです。

開幕まで一年を切った地元では、

会場作り・交通網整備と活気が満ちています。

伊藤京子

当初の博覧会は「新しい地球創造:自然の叡智」をテーマに掲げ、博覧会誘致活動が進められました。しかし、自然保護活動等の対立があり反対運動や幾多の議論が交わされて来ました。現在は着々と工事が進められていますが、これからも様々な問題が出て来る事でしょう。

私には国際博覧開催の是非は正直言って分かりません。しかし、この博覧会の問題があったことにより、私を始めとし多くの一般市民が「環境」について真剣に考えました。「環境との共生」を意識し始めたことは良い事です。

今回の国際博覧会は国毎にパビリオンを建てるのではなく、日本が用意した建物のブースの中での発表となります。建築に携わる者として少し寂しい気もします。環境破壊を最小限に各国の負担を減らし、小国でも参加可能にする為です。ハノーバー万博の日本館を覚えてみませんか。紙と布で出来たパビリオン。とっても素晴らしかったと思いませんか。会場で日本人として誇らしく思ったのは私だけでしょうか。そのう、構造材だったあの柱や梁がドイツの子供たちのノートに生まれ変わったのです。

愛知県館は地元杉材を利用し博覧会終了後、小学校の建設で再利用される事が決まっています。設計事務所の熱意、施工業者の努力、行政の理解、住民の協力があるからこそ良いものが出るのだとひしひしと感じています。博覧会会場の近くを通ると何故かわくわくします。そして、人間の叡智を試されているような気がします。

来年はぜひ愛・地球博へお越し下さい。

The World Exposition of Global Harmony

I T O, Kyoko

The World Exposition 2005, Aichi, Japan is going to be held in Aichi Prefecture from March 25 to September 25, 2005. People concerned are now quite actively preparing the site and traffic networks for the exposition, with less than one year left before the opening.



The activity to organize a world exposition started at first under the theme of "Creation of a New Global Society: Nature's Wisdom." There arose, however, opposition of groups for conservation of nature, anti-expo movements, and discussions whether an expo should take place or not. Even now, many problems are anticipated to arise, although the construction for the expo is being carried out steadily.

For me it is difficult to say whether we should hold the expo or not. But, it is good for the citizens including myself to start thinking seriously and be conscious of "Environment and Symbiosis", triggered by these problems.

In this expo, no participating nations are allowed to construct their own pavilions, but are requested to use the booths for presentation in the buildings prepared by Japan. This is for the purpose of minimizing destruction of the environment, and of encouraging small countries to participate by reducing the participation costs. This decision is a little sad for architects. Let's recall the Japan Pavilion at Hanover Exposition. Don't you think the pavilion constructed with paper and cloth was wonderful? I believe that not only myself, but also all Japanese participants were very proud of it at the expo. Moreover, the construction materials have been recycled to the notebooks of German children.

The Aichi pavilion will be built using Japanese cedar grown in Aichi, which will be reused for the construction of primary schools afterwards. I feel deeply that a good result will come out only through the enthusiasm of architect office, efforts of builders, understanding of governments and the collaboration of inhabitants. I get excited whenever I pass near the site, and it seems to me that the wisdom of human beings is tested.

Please come over to the Expo of Global Harmony next year!

(translation=Fujita)



建築士オープンステージ2003開催

小野全子

地元愛知県では、「国際博覧会」を支援しようと国際博覧推進特別委員会を設け、誘致の段階より各種事業を計画実施してきました。その一つに1999年から二年ごとに社団法人愛知建築士会が開催している建築士オープンステージがあります。建築家の活動発表を通して「環境と共生」や「これからの建築家の役割」を一般の人たちや建築を学ぶ学生と建築士と一緒に考える場です。第3回が、昨年の11月7日に名古屋市のナディアパーク3F・デザインホールで開催されました。

世界各地で活躍の建築家、ファーシッド・ムサビ氏と梅本奈々子氏をお招きして、「環境と共生」をテーマに講演していただき、後半は学生を交えてのパネルディスカッションが行われました。この二人の女性建築家は、ニューヨークの「世界貿易センター跡地コンペ」で最終7案の中に残るといふ実績のある方々です。

日本で横浜大根橋国際客船ターミナルを設計したムサビ氏は、常に今まで関わってきた様々な作業を分析し、そこから、多くのことを学び、今後のプロジェクトを成長させているとのこと。分析手法の一つとして、今までのプロジェクトを分類化しています。分類化を行なう上で、6つのカテゴリーについての説明がありました。第一は、形態のレベル。第二は、自然界の表層の組織化。第三は、サーフェイスのオリエンテーション。第四は凸凹。第五は、サーフェイスの中断、第六が、多様化です。この焦点となっているのがサーフェイスです。この分類化に基づく分析力が数々の世界的なプロジェクトへの参加に繋がりが、迫力のある設計が生まれ出されているのではないのでしょうか。

梅本氏は、ジェシー・ライザー氏とふたりによるニューヨークの設計事務所を中心に、建築から都市計画まで幅広く活躍されています。独特なCGや模型がとても興味深いものでした。現在、アメリカの東海岸におけるひとつの現代建築論として注目されているようです。

次回のオープンステージは、愛・地球博開催中に日本建築士会全国大会に合わせて2005年6月に開催予定です。

Open Stage for Architects 2003

ONO, Masako

The Aichi Society of Architects organized an *ad hoc* committee to promote the world expo, planned and carried out a number of projects from the initial stage. As one of these activities we organized an "Open Stage for Architects 2003", which provides a place where citizens and students discuss "Environment and Symbiosis" together with architects through their presentations of their activities. The third meeting of Open Stage for Architects, so far held every two years, took place in Nagoya on 7 November, 2003.

Prof. Farshid Moussavi and Prof. Nanako Umemoto, well-known women architects working actively in the world, delivered lectures on the theme of "Environment and Symbiosis." A panel discussion was also held with participation of many students.

The fact that their names were found among the final seven nominations of the International Design Competition for the World Trade Center Site shows their exceptional activities all over the world. We were deeply impressed by their talks on the approach to architecture from fresh and original view points. It was an invaluable opportunity for the students as future architects to learn global design techniques from their talks.

We, as inhabitants of Aichi Prefecture would like to have more interest in the exposition and an attitude to consider global view points. The next open stage will be held in June 2005 on the occasion of the national meeting of the Japan Federation of Architects & Building Engineers Association.

(translation =Fujita)

< 地域で > — in the Community

マリンスパあたみ

高橋満季



マリンスパあたみ外観

■熱海に住んで

私は、1994年から静岡県熱海市に在住しています。2000年5月より、現在勤務している『マリンスパあたみ』の開業準備スタッフに採用され、支配人を含む他の3名のスタッフとともに、当施設の運営・管理に当たっています。『マリンスパあたみ』は敷地である海浜公園の整備を含め、熱海市が25億円(国の補助含む)かけて建設した延べ床面積約4,500㎡の温水プールと温泉の施設です。市の100%出資する財団法人熱海市振興公社に運営が委託されており、私の籍も公社にあります。

建築士の資格を持ちながら、なぜ、私がこの仕事を選んだのかというと、「使う側にとって、作る側としての素養を生かしたかった。」といえは聞こえはよいですが、「知り合いのほとんどいない町で、経験もあまりない町づくりに関わるのに、とりあえずの入口がここしか見当たらなかった」というのが正直なところ。今は、「使う側にとって、日々の問題をクリアしていく中で、自分の持ち味が生かされている。」と感じています。

『マリンスパあたみ』は公共施設ですが、スタッフは支配人を含め、全員公募した民間人です。利用料金制度は基本的に受益者負担の考え方にたっていますので、利用料金としていただいたお金で運営をまかなうのが前提です。しかし、当館は毎年、7千万円程度の赤字を出しています。このような施設の常ですが、光熱水費、人件費、委託費の負担が予想を超えて大きく、初年度から、市税に負担をかけることになってしまったのです。営業努力・経費節減努力は当然ですが、7千万円という数字は、当施設の売上の4分の1強を占め、単純な努力では、いかんともしがたい額です。残念ながら、私の思うところ、かなりの部分、ハードの計画不備がこの負担増の原因を作っています。施設のスタッフとしても勿論ですが、一市民として、このことには考えさせられてしまいます。

当施設は今年度から私たち民間からのスタッフの手で赤字解消のための中期3ヵ年計画を実行に移します。町づくりへの参加という夢の実現のためにもこの3年にかけてみたい、というのが今の私の思いです。



サンビーチ・ライトアップ用と遊歩道上の床面

■熱海の今

さて、熱海では現在、花の博覧会(5月23日まで)を開催中です。サンビーチ(市内の人工海浜)のライトアップも始まりました。国際的に活躍されている石井幹子氏のデザインによるものです。熱海三大別荘のひとつ起雲閣の見学や会合もアレンジ可能です。新幹線品川駅の開業で、アクセスもさらに便利になりました。ぜひ、一度、熱海をお訪ね下さい。

< 組織で > — in the Organization

注文住宅専門のコンサルティングと「第三の性」

柏原雪子

中国では何でも雌雄を区別します。麒麟は麒が雄、麟が雌、ニジでは虹が雄、蜃(蜃)が雌を表します。しかしさすがの中国でも家に雌雄の区別はありません。ところが日本の家には雌雄があります。寝室・書斎を重視したデザインが雄、家には居ないが金主である夫を尊重した設計です。一方キッチンやトイレといった水周り重視のデザインが雌、家に長く居る主婦を尊重した設計です。どちらになるかは、多分設計者および夫婦の力関係で決まります。雌雄はどうあれ、家は住む人の世代交代つまり親から子への委譲によりその機能を継続、充足してきました。

ところが、最近雄でも雌でもない新しいタイプの家が発生しています。それが「第三の性」、老人です。バリアフリーは既に注目を浴びていますが、それだけで問題は解決しません。老後の家には退職した夫が24時間常住します。子供は同居せず、世代交代は起きません。どちらかに障害が起きた場合も対策は障害の程度で異なります。年金生活になると大きな追加投資はできません。つまりライフスタイルの変化と将来的な投資余力変化への事前対応が大きな課題になっているのです。現在の住宅は私たちが過去に蓄積してきた知識だけでは対応できなくなっているのです。

私は今、横浜を中心に展開している㈱マルナカホームという設計施工会社で注文住宅専門のコンサルティングをしています。この会社は私の考えを理解し、全面的にフォローしてくれます。単なるデザインではなく、お客様の目線で徹底的に考え、コミュニケーションをし、お客様にずっと満足して頂ける家を作ることが私のモットーです。10年後、20年後の未来を考えて住宅を作り上げるのが私の最近の楽しみになっています。

“The Third Gender” and Special Ordered Housing Consultation

KASHIWABARA, Yukiko

Recently, the expression “third gender” has come into existence, to refer to senior citizens. Barrier-Free is already famous. But it isn't sufficient. In seniors' houses, there will be many problems in the near future. Retired husbands stay home 24-hours. Their children never live with them. They cannot have enough money. Handicap problems will happen.

Now it is rather hard to cope with seniors' houses only with existing know-how.

We have to develop new knowledge and techniques. So it has become my motto to plan with clients, to discuss with clients, to acquire the satisfaction of clients.



荒木邸寝室

Hot Spring Resort in ATAMI

TAKAHASHI, Maki

I moved to Atami In 1994, now I am in charge of management of “Marine Spa Atami” which is a public facility (heated pool and spa) of Atami city since 2000. It seems that my knowledge of building is helpful for my daily work. My dream is to take a part in town planning to put this experience to good use in the near future.

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町2-6-5

麹町 E.C.K.ビル ㈱生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@LIQL.CO.JP

発行 2004年5月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866

■ 「小川信子先生、行ってらっしゃいの会」報告

A Sabbatical Party for Dr. Ogawa

3月14日赤坂のレストラン・ストックホルムで、UIFA JAPON 会長の小川信子先生の「行ってらっしゃいの会」が開催されました。先生はスウェーデン王立工科大学のディック・ウルヴァン教授からの招聘で1年間客員研究員として渡欧されます。ストックホルムのSODERMA LMIに居住しながら、Södra sotationsområdet 操車跡の低層集合住宅を中心とした再開発を見届けたいこと、北方圏生活福祉研究所（北海道浅井学園大学）の研究をかね、陶磁器で有名なグスタフベリーの古い住宅地の再利用計画などを研究対象とされることを語っていらっしゃいました。そして、4月5日元気に出発なさいました。秋のトゥールーズのUIFA 世界大会には参加されるそうですので、そのあと先生とともにストックホルムへの旅が出来そうです。



写真：渡辺

(井出)

■ UIFA 会員の本

世界の建築・町並みガイド6

アメリカ/カナダ/メキシコ

黒川直樹

+ 田中厚子

+ 楠原生雄：編

株式会社エクスナレッジ発行



厚さ1cm未満と、旅の道づれとしては、ありがたいコンパクトなガイドブックだ。

この中には、「いまの私達が欲しい」旅先の新旧建築の見所が、卓抜な選択眼で提供されている。アメリカ・メキシコ建築史のダイジェスト、お勧め本も網羅され、一般向けと言いながら、かなりプロ仕様。見学が許可されている建物を中心なので、是非訪ねてみたい。田中厚子がカナダ・アメリカ西海岸と南部を担当。写真も彼女の撮影による。旅も、網羅的から、テーマを決めめに訪ねるスタイルになりつつある中、このガイドブックは「テーマ別建築と旅の楽しみ方」を紹介している。さきのUIFA日本大会での田中厚子の西海岸の日米住宅交流史は記憶に新しいが、テーマ6「ロサンゼルス・モダニズム建築を訪ねる」項で紹介されているシンドラー邸や、イームズ邸など、カリフォルニア・モダンを訪ねたい方にもお勧めの一冊だ。もう旅は始まっている。

(井出)

田村さん有難うございました。

1999年度から編集プロとしてUIFA JAPON ニュースレターの編集を担っていただいた田村伴子さんが、2003年度をもって編集から去ることになりました。編集会議における記事の企画から、締め切り間際の文章校正・レイアウトまで、毎号大変な作業をしてくださった田村さん。すっかり頼ってきた私たちは、これから厳しい現実に向き合うことになります。田村さん、長い間有難うございました。これからも折に触れアドバイスしてください。(広報一同)

今回の英文はカレン・セブンスさんに目を通して頂きました。

パリからのすてきなお知らせ！

4月12日のフィガロ紙によると、…

UIFA会長、ド・ラ・トゥールさんは、このたび、レジオン・

ドヌール勲章のコマンドゥールの位を授与されました！

いままでオフィシエの位をお持ちでしたが、さらに上位の

位を授与されたわけです。(松川)

■ 同潤会大塚女子アパートメント保存活動からのお知らせ

日本建築学会のあります建築会館にて、「旧同潤会 大塚女子アパートメントの保存運動に関する報告会(仮)」を開催することにした。

6月25日(金) 午後6時～8時 建築会館2階会議室

(建築会館：東京都港区芝5丁目26番20号/JR 田町駅または地下鉄三田駅より徒歩)

内容は、これまでの生かす会や建築学会などの保存運動と建築、文化人有志による訴訟の結果の報告及び今後のこうした建物の保存に対する働きかけについて議論しようというものです。

このイベントをきっかけに、また次への保存あるいは歴史的ストックを生かしたまちづくりへつなげていこうというフォーラムです。

UIFA JAPON の皆様もご参加ください。

(渡辺)

■ 学校トイレ改修セミナーに参加して

衛生陶器メーカー主催のセミナーが、去る1月30日開催されました。200人近い参加者の約80%が、各地の教育委員会や、地方自治体の関係者で占められ、関心の高さに驚きました。

UIFA JAPON 会員の小林純子さんが、司会を務め、長年培われましたノウハウと、子供達の事を深く考えた先例を、スライドで示されました。滋賀県の栗東中学での、ホテルなみに改善されたトイレに、子供達が誇りを持って維持管理して来た好例が紹介され、感動しました。環境が人の心を変える事に思いを強くし、この方向を、出来るだけ多くの子供達に伝えて行く手立てについて考えなくてはなりません。

(中野)

■ 役員会報告

第10回 2004年2月26日(木)

議 事：「10年の歩みデジタル化」のための「私たちの仕事の現場」の写真の募集。「クアチアの本」仮とじ版完訳。UD小冊子原稿確認開始報告。小川会長長期出張に備えて体制づくりに着手。次年度からNL編集プロをお願いするのをやめる。

第11回 2004年3月26日(金)

議 事：NL次年度より新たなロゴとタイトルを採用決定。同様に会員証刷新。総会記念講演池田氏に依頼決定。「10年の歩みデジタル化」のビジュアルな展開の紹介と中間報告。小川会長出張中は松川会長代理とする。14回世界大会への参加者現時点10名の報告。

第12回 2004年4月14日(金)

議 事：「10年の歩みデジタル化」仮披露。学校のトイレ見学会 この指とまれで開催を承認。

編集後記

連休中訪れた神戸で「災害に強い街とは…」を教わった(須永)。もうすぐUIFA JAPONの総会です。初参加なのでドキドキです(石川)。会員がつくるニュースレター、常時投稿大歓迎です(田中)。旅のガイドブックは使う人によって千変万化、人の息づかいと建築がよく見える旅がしたいですね(井出)。継続は金といいますが参加も金。参加したくなる関係性を創ることが継続の要でしょうか。今号は編集プロ田村さんという強い味方のいない発行1号です。しかも英文併記。つたないところもありまじょうが、皆素人なりに考え考え進めています。ぜひ皆様の声を寄せてください(渡辺)。新しいヘッドデザインに変わりました。中身の充実には、皆様の英知が欠かせません(中野：編集長)。